

試掘調査の現況

38年秋に北海道方で準備工事に着手した調査斜坑は、その中で先進ボーリング、注入試験、吹付試験等を繰返しながら、41年8月現在で斜坑長800mに達している。斜坑長415mで海岸線直下に達し、800mで海水面下約190mである。

本州方は39年度末に準備に着手し、40年度末の41年3月より掘さくを開始し、41年8月で292mに達している。

(1) 北海道方調査斜坑

(1) 掘さく

1964年春から掘さくを開始した。地質は新第三紀、中新世に属する訓縫層の凝灰岩およびシルト岩類で多少の割れ目を有している。その岩石学な諸性質は別表の通りである。

掘さくは、レッグドリル7台で $1^m30 \sim 1^m60$ 程度のさく孔を掘さく断面 25.3 m^2 に対し約60~80孔行い、掘さく 1 m^3 当りダイナマイト量は $0.5 \sim 0.8 \text{ kg}$ である。

ずり搬出は2台のウインチ(150HP・200HP)に連結されたそれぞれ約 3 m^3 のスキップカーによつて行い坑外のホッパーを経てベルト坑道よりダンプトラックに積かえて構内の埋立てを行つている。坑道の支保は $125^m \times 125^m$ のH型鋼製支保工及び吹付コンクリート約10